

## 【漁況】

### [マアジ]

#### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成27年は15万2千トンとなりました。

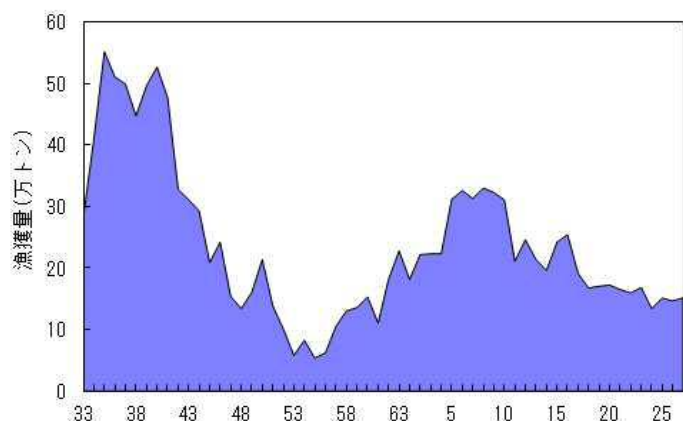


図 全国のマアジ漁獲量の推移

#### 2. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺、天草沖、宇治で漁場が形成されました。

薩南海域では、種子島北、種子島南、開間沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、マアジ仔・豆（0 歳魚：平成 29 年生まれ）主体に、期全体で 438 トンの水揚げで、前年の 76 %及び平年の 106 %となりました。

#### 3. 県内の平成 30 年 1 ～ 3 月期の見とおし

漁獲の主体はマアジ仔・豆（1 歳魚：平成 29 年生まれ）で、マアジ小（2 歳魚：平成 28 年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年並で平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、近年の漁獲パターン等から予測しました。

例年、当歳魚が漁獲に加わる 5 月頃まではマアジ仔・豆（1 歳魚）が漁獲の主体となります。

平成 29 年 7 ～ 9 月に 0 歳魚（平成 29 年生まれ）が非常にまとまって漁獲されており、今期も継続すると考えられることから、今期の来遊量は好調であった前年並で、平年を上回ると考えられます。

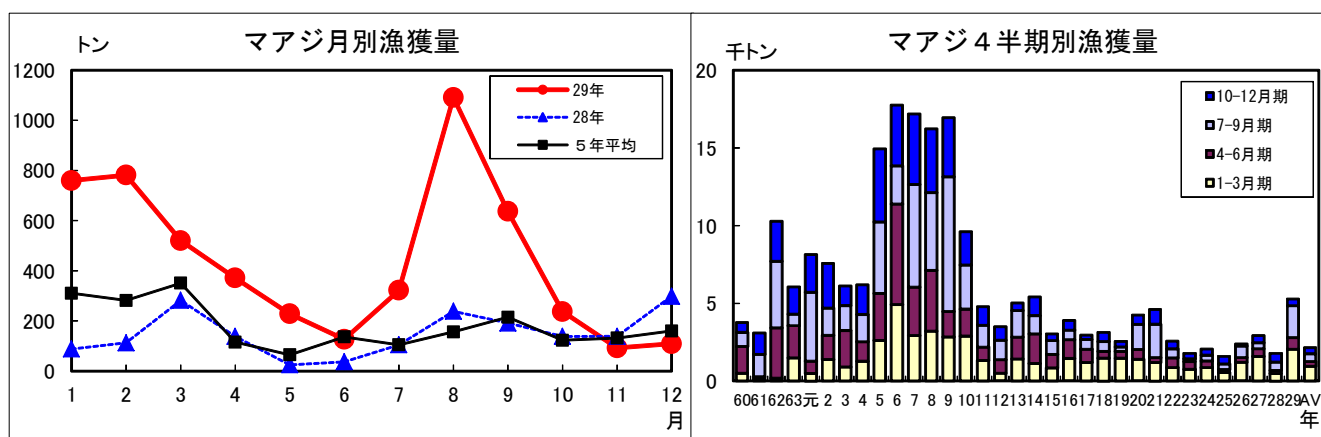


図 マアジまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，平成 29 年 12 月 27 日までの水揚げ量を使用

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年に65万トンまで増加したあと減少傾向となりましたが、平成27年は前年を上回る55万7千トンとなりました。

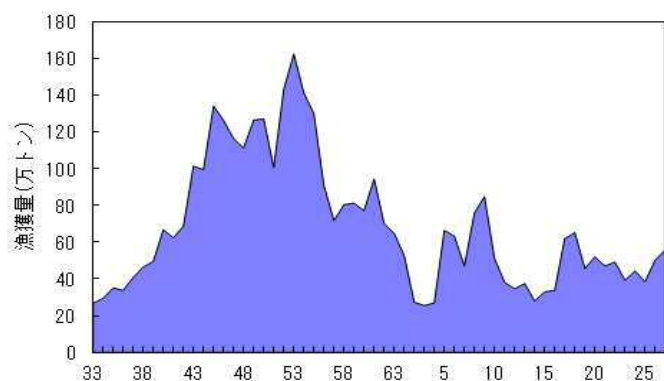


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甑島周辺、津倉、宇治で漁場が形成されました。

薩南海域では、開聞沖、竹島、種子島北で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、ゴマサバ豆（0 歳魚：平成 29 年生まれ）及びゴマサバ中（2, 3 歳魚：平成 27, 26 年生まれ）主体に期全体で 3,859 トンの水揚げで、前年の 180 % 及び平年の 225 % となりました。

### 3. 県内の平成 30 年 1 ～ 3 月期の見とおし

漁獲の主体はゴマサバ中（2, 3 歳魚：平成 28, 27 年生まれ）で、ゴマサバ大（4 歳以上：平成 26 年以前生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

例年この期間はゴマサバ 2, 3 歳魚が漁獲の主体になります。平成 29 年下半期に前年・平年を上回る 1, 2 歳魚の漁獲があったため、今後もゴマサバ 2, 3 歳魚の漁獲は継続すると考えられます。サバ類全体の来遊量としては、マサバの突発的な来遊があった前年を下回り、平年並であると考えられます。

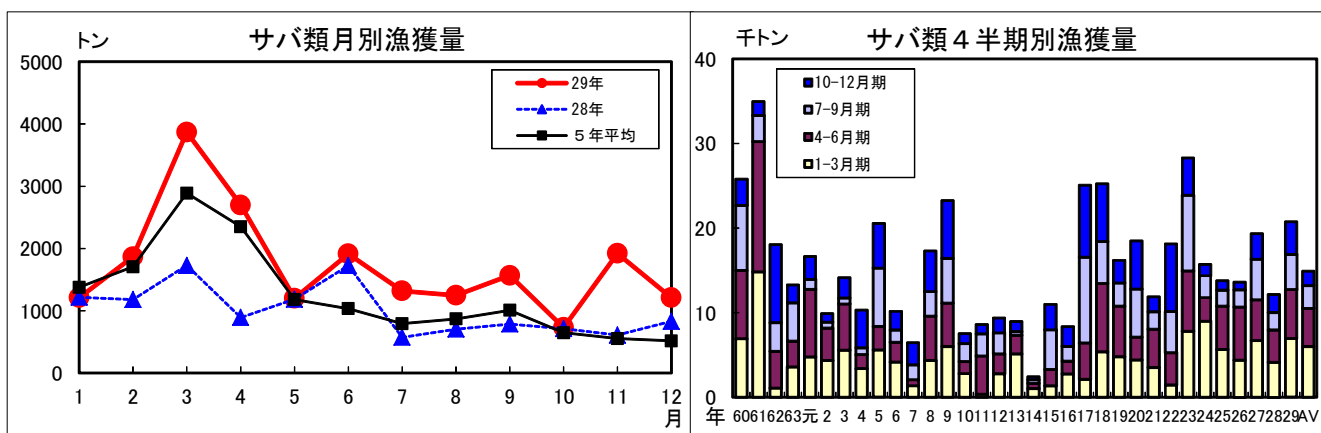


図 サバ類まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV), 平成 29 年 12 月 27 日までの水揚量を使用

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、平成25年以降は20万トンを超える漁獲が続き、平成27年には34万トンとなりました。

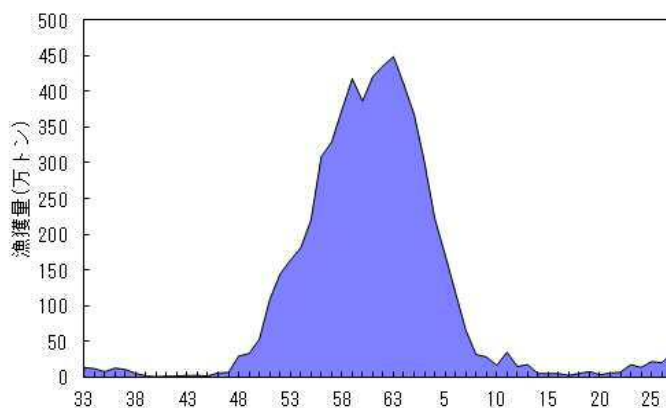


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、天草西沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、漁場が形成されませんでした。

4 港計のまき網では、中羽（0 歳魚：平成 29 年生まれ）主体に 169 トンの水揚げで前年の 16 %、平年の 10 %でした。

北薩海域の棒受網は、阿久根沖、長島沖、長島（内海）で漁場が形成され、6 トンの水揚げで前年の 22 %、平年の 11 %でした。

## 3. 県内の平成 30 年 1 ～ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（1 歳魚：平成 29 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年並で、平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる 1 歳魚（平成 29 年生まれ）は、4 月の加入以降低調な漁が続いていることから、来遊量は低調だった前年並で、平年を下回ると考えられます。

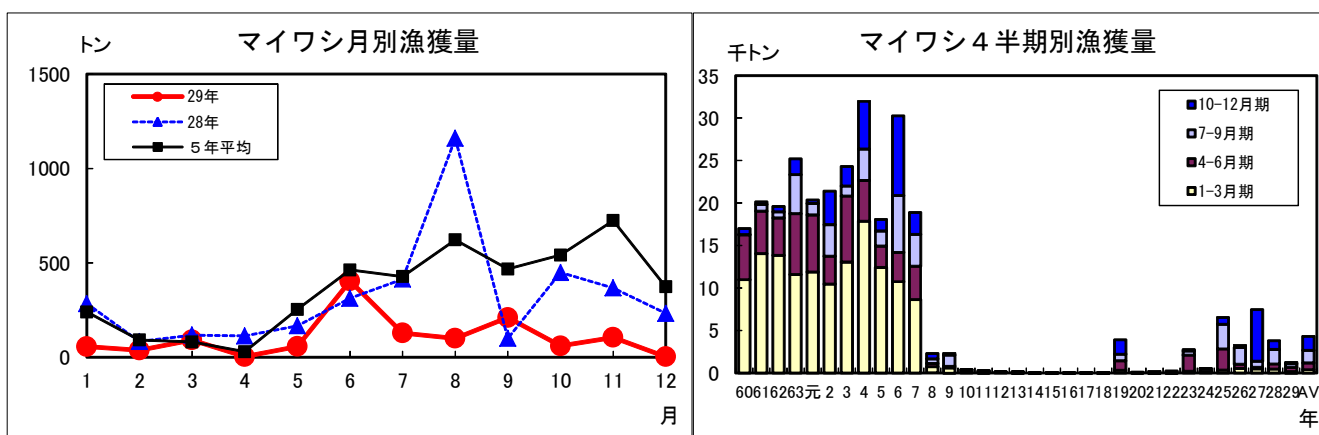


図 マイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，平成 29 年 12 月 27 日までの水揚げを使用

# [ウルメイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成27年は9万7千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となり、高い水準を維持しています。

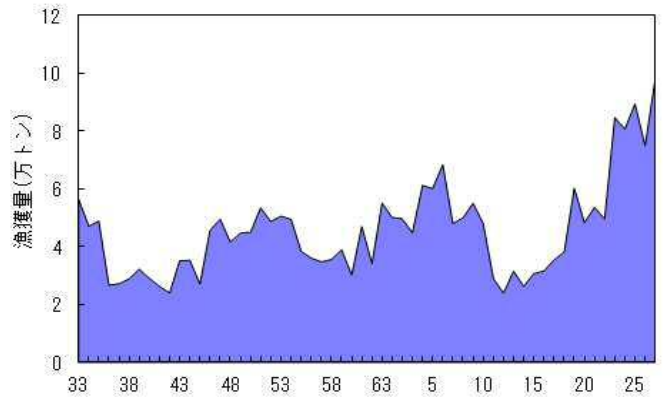


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽（0 歳魚：平成 29 年生まれ）主体に 2,314 トンの水揚げで前年の 77%，平年の 75%でした。

北薩海域の棒受網では、阿久根沖，長島沖，長島（内海）で漁場が形成され，149 トンの水揚げで前年の 22%，平年の 26%でした。

## 3. 県内の平成 30 年 1 ～ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は，中羽（1 歳魚：平成 29 年生まれ）で大羽（1 歳魚：平成 29 年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は前年を下回り，平年並でしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる 1 歳魚（平成 29 年生まれ）は，5 月の加入以降平年並の魚が続いていることから，来遊量は好漁だった前年を下回り，平年並と考えられます。

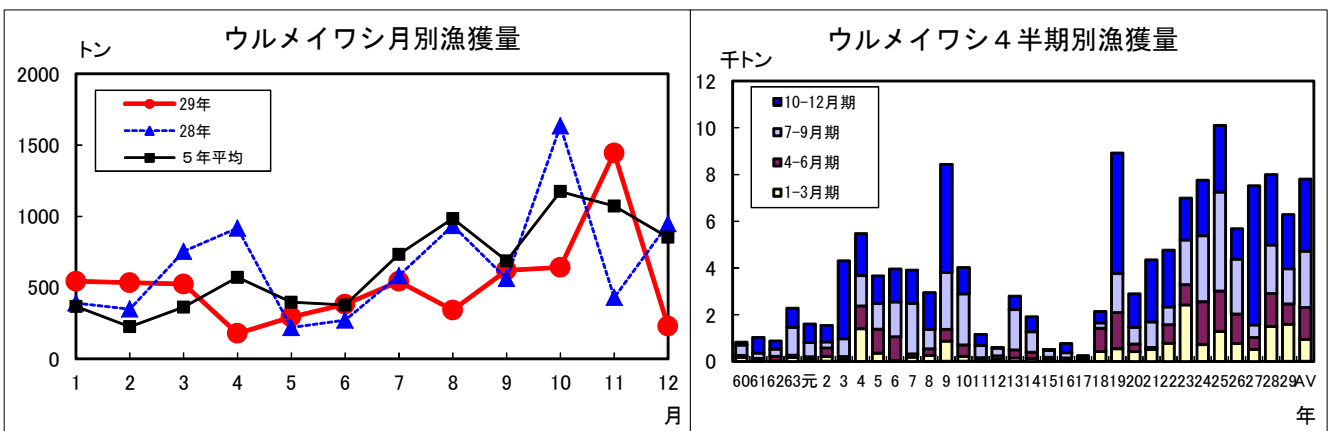


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，平成 29 年 12 月 27 日までの水揚量を使用

# [カタクチイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成27年は16万9千トンとなりました。

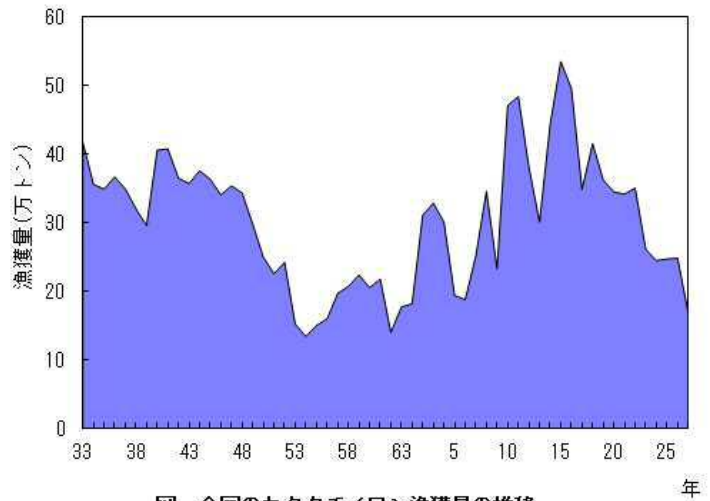


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、漁場が形成されませんでした。

薩南海域のまき網では、漁場が形成されませんでした。

4 港計のまき網では、大羽（平成 28 年生まれ）主体に 1 トンの水揚げで、前年の 0.1 %，平年の 0.1 % でした。

北薩海域の棒受網では、1 トンの水揚げで、前年の 4 %，平年の 2 % でした。

## 3. 県内の平成 30 年 1 ～ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、小～中羽（平成 29 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる小羽及び中羽の漁況は、前期非常に低調に推移しており、今後も低調な漁獲が見込まれることから、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

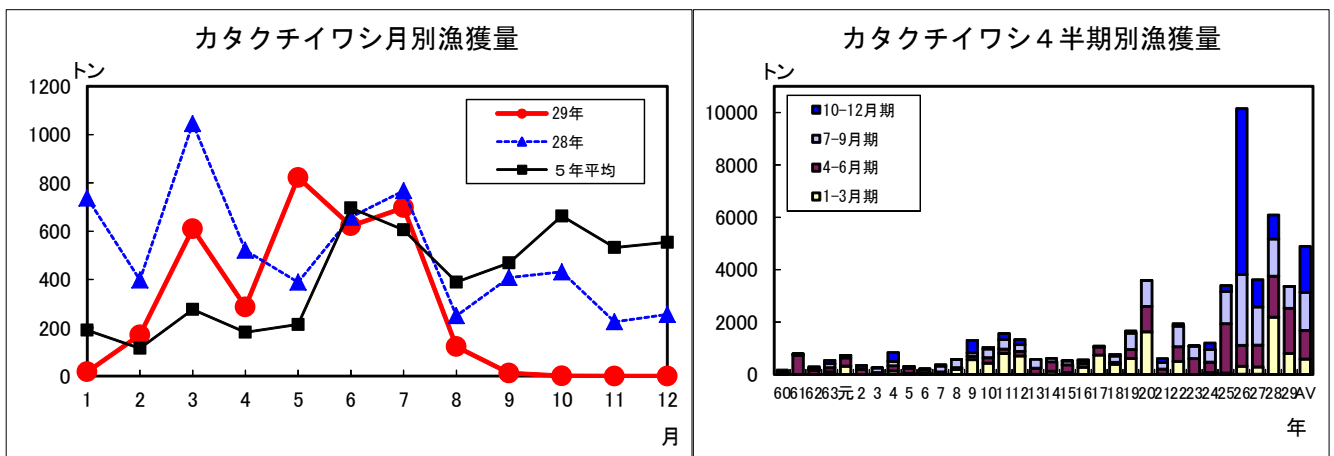


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，平成 29 年 12 月 27 日までの水揚量を使用

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成11年の5,450トンピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成28年は1,497トンとなりました。

志布志湾海域では、平成19年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成28年は1,496トンとなりました。

## 2. 平成29年9～11月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に410トンの水揚げで、前年の134%、平年の123%でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に470トンの水揚げで、前年の68%、平年の100%でした。

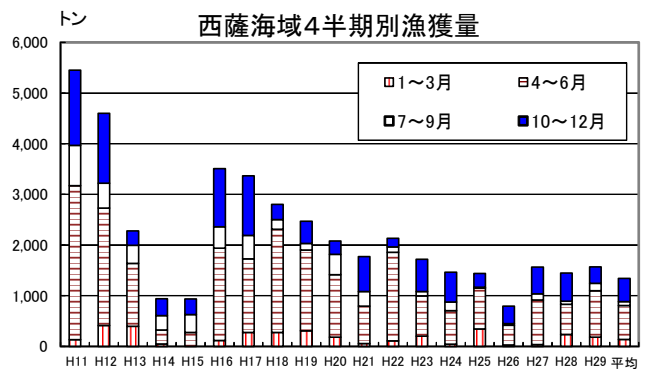
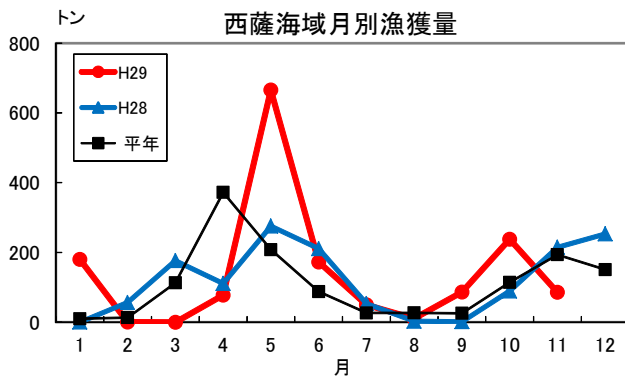


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

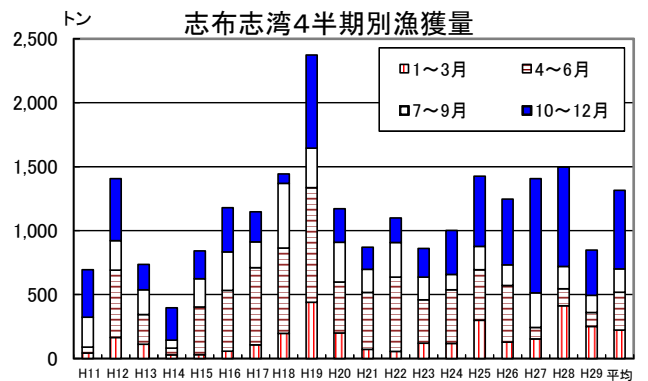
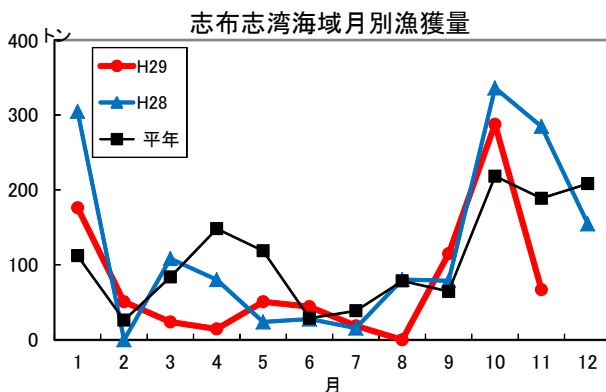


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、平成29年11月30日までの水揚げ量を使用



[イワシ類参考資料]

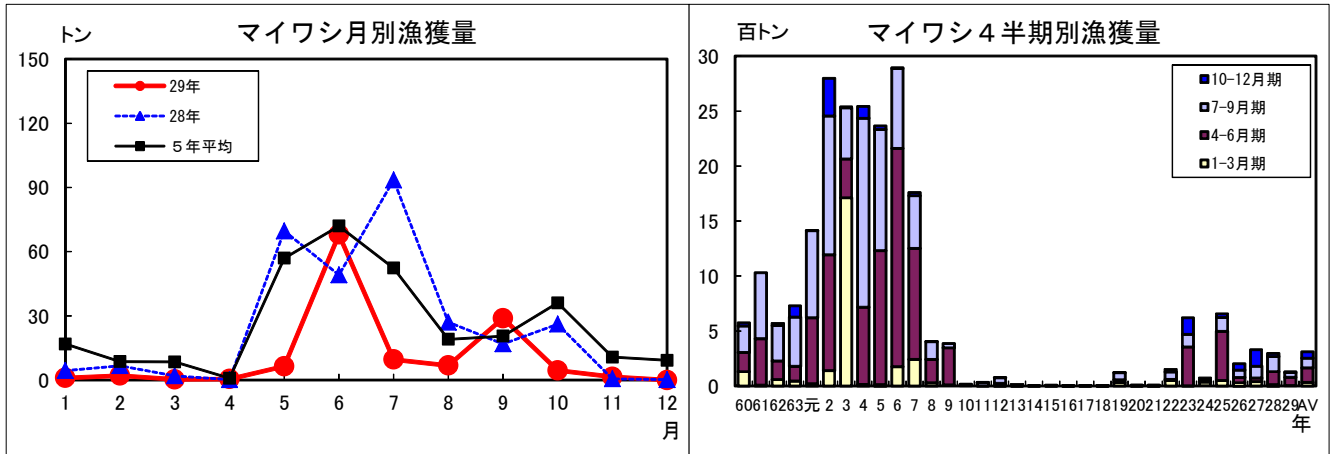


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

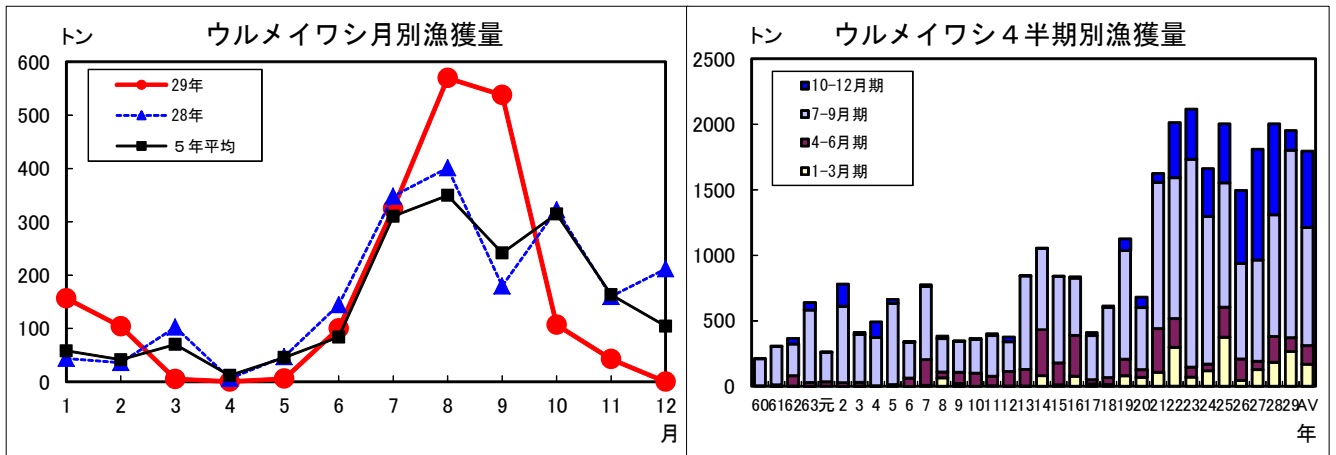


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

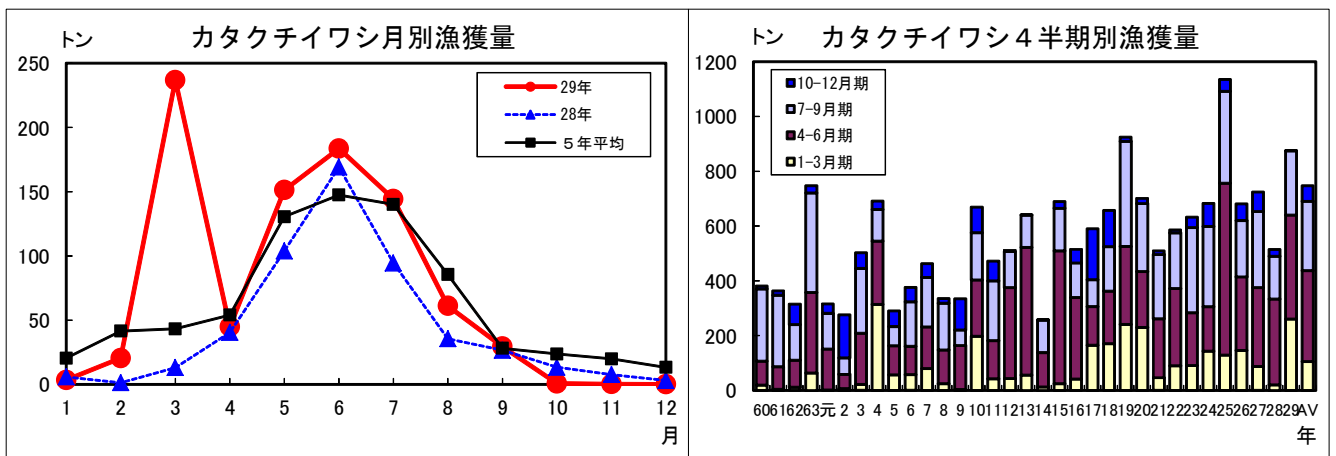


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年の平均値(AV), 平成29年12月27日までの水揚量を使用

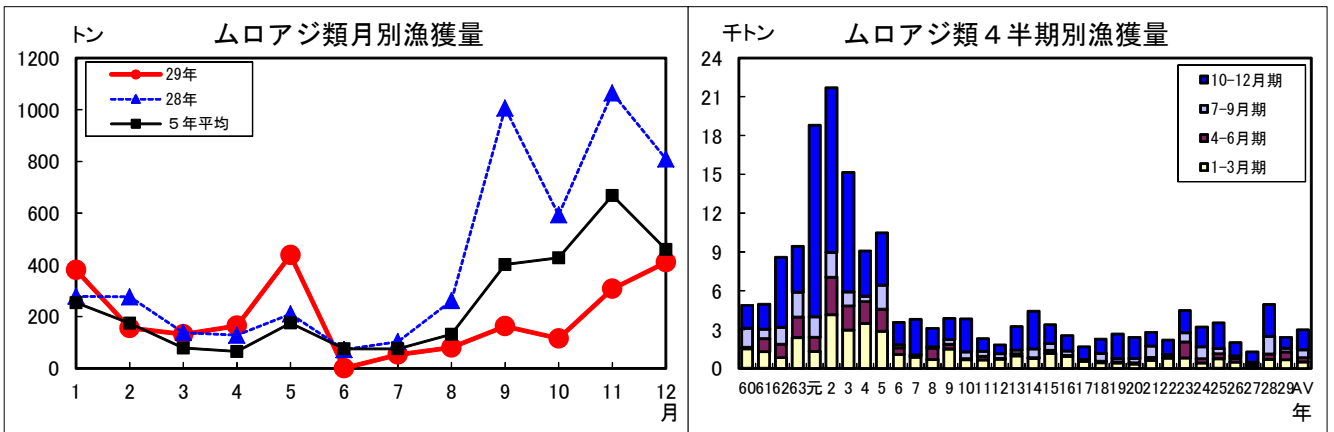
**[参考：漁況経過のみ記載]**

〈ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成29年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから5,000トンの間での推移しており、平成29年は2,400トンとなりました。

4港計のまき網では、種子島南、種子島東、宇治でクサヤモロ小、クサヤモロ中小主体の漁場が形成されました。期全体で833トンの水揚げで、前年の34%及び平年の54%でした。



**図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)**

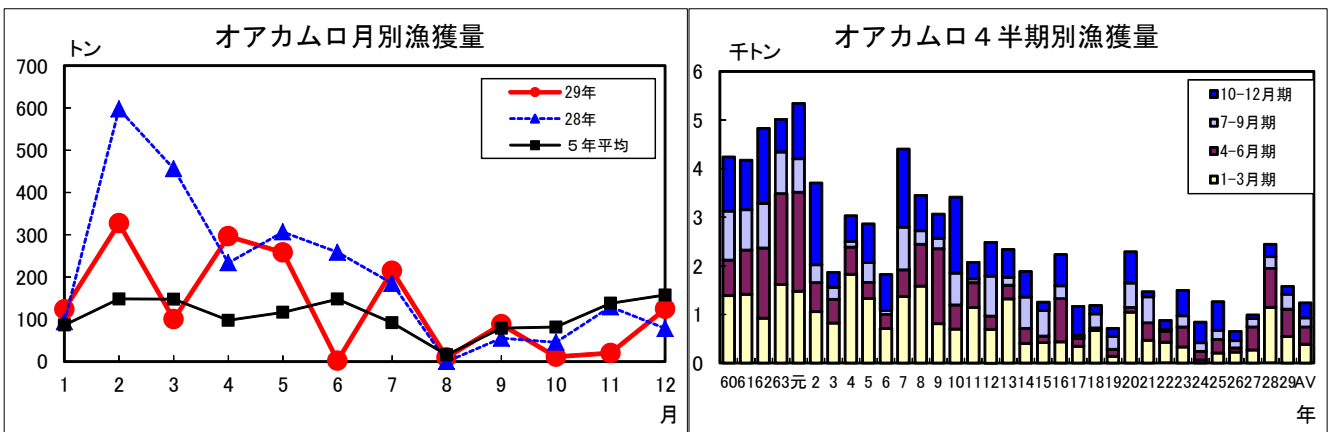
※平年値は過去5年の平均値(AV)，平成29年12月27日までの水揚げ量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成29年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年に一旦増加したあと再び減少傾向を示しましたが、平成29年は1,576トンとなりました。

4港計のまき網では、種子島北、種子島南、草垣でオアカムロ中小主体の漁場が形成されました。期全体で156トンの水揚げで、前年の61%及び平年の41%でした。



**図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)**

※平年値は過去5年の平均値(AV)，平成29年12月27日までの水揚げ量を使用



〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成29年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、平成29年は313トンとなりました。

4港計のまき網では、串木野沖、甌島周辺でアオアジ豆、アオアジ小主体の漁場が形成されました。期全体で63トンの水揚げで、前年の117%及び平年の65%でした。

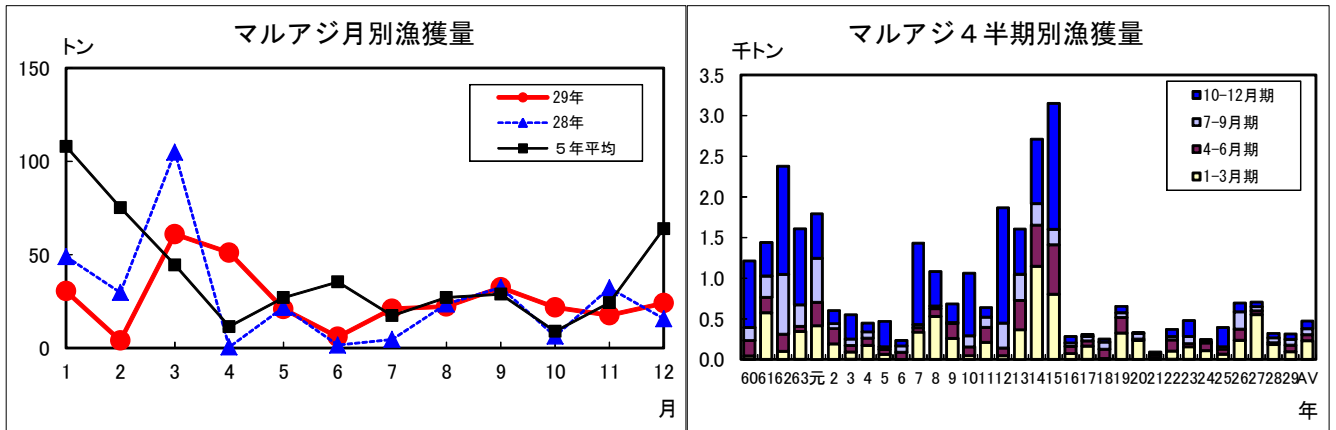


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)，平成29年12月27日までの水揚げ量を使用